

令和5年度社会福祉法人福鳳会事業計画書

1 法人の基本理念

福鳳会は、『敬老愛護』を基本的精神とするとともに、つぎの「基本理念」を、運営の目標、経営判断の基準及び職員の行動規範として、その実現を目指していく。

- 一 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- 一 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- 一 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- 一 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供出来るように励み、地域社会活動にも積極的に関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

2 法人の経営方針

福鳳会は、基本理念の下、ご高齢者やご家族が憂いなく安心して暮らせる地域づくりに貢献していくための基本的な取り組みとして、まず第一に、「敬老愛護」の基本的精神に基づく高質のサービス提供に一層努めていく。第二に、質の高いサービスを提供する原資を得るために経営の安定化に取り組んでいく。第三に、職員が安心して働ける環境づくりに努めていく。第四に、制度や地域のニーズ変化に対応した高齢者サービスについて不断の研究を行い、地域包括ケアへの寄与に努めていく。

こうした基本的な取組として、令和5年度は、以下の「【1】4つの基本的な取り組みに基づく令和5年度運営方針」に基づいて取組を進める。

また、令和4年度収支については、新型コロナウイルス感染症の間接的・直接的な影響、エネルギー価格や食糧費の高騰、いこい増築、本館及び新館の大規模修繕・個室化等による減価償却費の累増等によって、かつてない水準の赤字が見込まれる。

こうした状況と原因の分析を踏まえて収支及び運営の改善を図るため、【1】の3つの柱の視点を元に改善対策を整理した（別添の）「【2】令和5年度改善計画」に基づいて、【1】と連動させながら改善を実現していく。

【1】4つの基本的な取り組みに基づく令和5年度運営方針

（1）敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立

（ア）収入の増加と地域の高齢者ニーズの連結

介護サービスは、通常の事業とは異なって固定費の割合が著しく高いことから、（単価が一定なら）稼働率のわずかな変動が、収支を大きく変化させる特性を持

っている。

このことを踏まえ、福鳳会は、主に敬老愛護、お客様ファーストの追究によって、ご利用者、ご家族、地域に「選ばれる福鳳会」を目指し、それに伴うご利用者の増加によって稼働率を向上させていく道を選択していく。このため、以下に取り組んでいく。

① 職員の資質向上によってご利用者の満足向上を図る

「選ばれる福鳳会」となるため、職員の介護力の向上とともに、ご利用者に不安を与えない接遇やコミュニケーション力の向上等に向けた職員の成長を支援していく。

- 職員に期待される資質、マインド、スキル、知識等を明示することで、職員個々の努力の方向を示す職能評価制度について、さらに充実、強化していく。
- 職員の成長に寄与する施設内外の研修の充実や、自己啓発研修費貸与制度を活かして自己啓発研修に取り組む職員を支援する。
- OJT の有効性を高める検討を行い、改めてその実践に取り組んでいく（新）。

② ニーズが高く価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化を図る

- 機能訓練など各部門や職種ごとに強みと弱みを分析することで、「他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービス」の再発見とその強化に取り組む。それは、それが事業所全体の魅力を形づくると考えるためである。

ご利用者、ケアマネにとっては、直ちに利用はしない場合でも、将来必要になった場合には、いつでも、それらのサービスを容易に追加して利用できることが、その事業所を安心して選択できるかどうかを考える際の条件の一つとなる。

新たな加算取得は、ご利用者さまや居宅介護支援事業所に対するアピールや営業活動に折り込むことで、はじめて価値があるものになる。

将来的に利用できる可能性があるサービスの範囲が広いことによって、1日当たり平均利用者数が1人でも増えれば、それだけで（デイサービスの場合）年間250万円以上の収入の増加をもたらす。社会福祉事業は固定比率が高いので、この場合の収入増加に伴う費用の増加は数万円程度に過ぎない。このため、収入増加の95%は、そのまま収支を改善することになる。

こうした加算や新しい特色あるサービスを実現するために、部門を超える組織的な対応や予算が必要なものについては、各部門や法人全体が設置する、サービス向上委員会、事故対策委員会、介護力向上委員会、機能訓練推進委員会、栄養管理委員会、褥瘡予防委員会、苦情対策委員会、マニュアル委員会などの場において、重点課題として取り上げ、サービスの一層の充実に努める。

○ 施設事業部については、引き続き高い介護の質の維持とその向上に向けて取組みを進めていく。また、価値のあるサービスとして、給食、機能訓練などについては、さらに質や内容の維持向上に努めていく。5年度は、引き続き、利用者の安全、安心を一層向上させるため、転倒や誤嚥性肺炎対策に関する取組みの強化を図る。

○ “生きる”を支える食、口から食べる為の支援を強めていく。

4年度に採用した言語聴覚士、管理栄養士の充実を活かして、介護職をはじめ各職種の連携によって、入居者様が生き生きと暮らしていただける生活に寄与するよう努めていく。

○ 褥瘡予防・身体拘束について科学的根拠のあるケアに努めていく。

☆ フロア制（フロア＝ユニット重層制）の導入定着

西館いこいの完成や新館の大改修等によって、ユニットの編成は大きく変化した。このため、職員の配置については、最善で効果的なあり方の検討を引き続き進めていく必要がある。

その一環として、個室化改修により、全館全ユニットの規模を定員11～12床に縮小し、ユニット型に準ずる運営を順次強化する一方で、隣接する2つのユニットを合わせて1つのフロアとして、全体業務をフロア単位で行う業務とユニット単位で行う業務に切り分け、フロア単位の運営とユニットケアの重層的な組み合わせによって、介護の質的向上と入所者の人的生活環境の向上を図る（フロア制（フロア＝ユニット重層制）という）。これにより、小ユニットによるユニットケア導入を促進するとともに、職員に余裕を作りだし、人材育成、シフト編成や希望休取得の柔軟性の確保、効率的な業務運営による効果的な業務執行に引き続き取り組んでいく。

これについては、試行錯誤を繰り返しながら進めていく必要がある。

☆ 増築・改修に伴うサービスの充実

ショートステイの定員については介護保険事業計画のしぼりがないことから、いこい増築によって生じたスペースを活かして、3年度から4年度に合わせて定員を3床増床した。このうち1床については、3年11月に本館ショートステイ内の静養室を居室化することで増床した。

また、4年7月に大規模修繕・個室化を完了した新館1階と2階に静養室として整備した多目的室を併設型短期入所の居室とし、主に介護度が比較的高く、新たに中長期的な「短期入所」利用が必要な利用者を受け入れるサービスを開始した。

介護度の高い中長期的な利用を対象とする理由は、①短期利用で頻繁な入所退所があると、長期ユニット内で感染症対策上問題があること、②同じユニット内に介護度、入退所の頻度が大きく異なる方が入ると介護が難しいことやご利用者が互いになじみにくい可能性が考えられることによる。

こうした実績、経験を踏まえ、今後は、本館2階東に生じたスペースを

活用して、新たなサービスを検討していく。

- 鳳鳴苑デイサービスセンターについては、運動、リハビリテーション等、ご利用者のニーズにあったサービス充実を引き続き検討、導入していく。
- 認知症対応型デイサービスセンターえがおについては、認知症に関して専門的なサービスを引き続き提供していくとともに、落ち着いた小規模デイの利用に適したご利用者のニーズに対応するなど、その特色を活かして、地域のニーズに応えていく。
- 医療的な対応が必要なご利用者や介護度の高いご利用者あるいは家庭環境その他に関して課題の多いご利用者に応えられるように、高志の郷デイサービスセンターでは、2年度に寝位浴とチェア浴の両方に対応出来る機械浴を導入した。これは、その機能を利用される方々の多寡にかかわらず、介護支援事業所の高志の郷デイの評価を高める方向に作用し、稼働率の向上につながると考えられる。今後も、ご利用者、ご家族や居宅介護支援事業所などのニーズに柔軟に応えられるように、必要な体制や環境の充実について取組をすすめていく。また、令和3年10月に開設した高志の郷介護支援事業所と連携して、立地する地域のニーズに応えていく。

令和元年2月に参入した高志の郷デイの総合事業通所型サービスAについては、近隣地域包括支援センター等と連携しながら、引き続き利用者の増加に努める。

高志の郷に限らず鳳鳴苑デイでも、相対的に元気な利用者のリハビリ、短時間利用などのニーズにも応えられるようなサービス等について対応の検討を進めていく。

- 運営の効率化に向けてサ高住との連携を強めていく。
- 今後の地域包括ケアシステムで重要な役割を果たすことになる訪問介護ステーションについては、引き続き、その強化に努めていく。また、その一環として、令和5年2月に高志の郷拠点に開設した定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所「定期巡回にこにこ」の利用者の拡大に努めていく。

③ ご利用者に安心していただける環境やサービスの実現に努める

- 各部門において安全の確保に取り組むとともに、事故対策委員会、栄養管理委員会、感染症対策委員会、苦情対策委員会、災害対策委員会などの場において重点課題を設定し、安全の確保や事故対策の水準の向上に取り組む。
- 施設事業部では、ご利用者の入院が稼働率に直結することもあり、ご利用者の体調管理や安全管理に一層努めていく。

- ④ 地域の高齢者ニーズに応えていくことは福鳳会の使命である。しかし、こうした地域のご高齢者やご家族のニーズは、高齢化や長寿化の進展、独居世帯や高齢者夫婦のみの世帯の増加などの環境変化を背景に、医療的ケア

の必要な高齢者の増加や孤立する高齢者が増加する一方で、元気な高齢者の増加など、多面的な変化が続けている。

- このように多面的に変化する環境の下で多様なニーズをくみ取り発掘し、既存のサービスを組み合わせることで必要なサービスを作り出していくことは、地域包括支援センターや在宅介護支援センターの重要な役割である。こうした新しい課題にいち早く直面する可能性の高い両事業所は、一層地域の高齢者等の課題やニーズの発掘に一層努めていく。
- 地域包括支援センター、在宅介護支援センター、高志の郷介護支援事業所に関しては、引き続き人材の安定的な確保等について努力していく。

⑤ 新たなサービス等を通じて新しいニーズに取り組む

制度や地域の状況の変化に対応した新たなサービス等に取り組む。

- 高志の郷デイサービスセンターについては、引き続き医療的な配慮を要するご利用者や介護度の高い利用者に関して柔軟に対応する体制を強めていくとともに、令和元年2月に参入した新しい総合事業通所型サービスAにより、市街化地域における幅広いニーズに対応していく。
- 訪問サービスセンターについては、引き続き利用者のニーズに柔軟に対応していくとともに、市街化地域の多様なニーズ対応に向けて、高志の郷サテライトと連携しつつ、令和5年2月に開設した定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所「定期巡回にこにこ」の利用の拡大に取り組んでいく（再掲）。

⑤ 居宅介護支援事業所等へのPRや連携の強化に取り組む

ご利用者の受け入れについて柔軟に対応するように努めることなどにより、近隣居宅介護支援事業所との協力関係の一層の強化に努めるとともに、福鳳会の取り組みを近隣の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などに理解してもらう努力を続ける。

- 鳳鳴苑デイサービスセンターについては、他法人の居宅介護支援事業所等との関係強化にも積極的に取り組むとともに、西館いこい及び既存各館改修に併せて魅力あるサービスの具体化の検討に努めていく。
- サービス付き高齢者向け住宅高志の郷については、より魅力のある施設となるよう努めると共に、地域包括支援センター等との関係強化に取り組んでいく。

また、サ高住入居者さまのニーズについては、地域の事業者との連携によるサービスや、高志の郷による栄養管理相談や健康相談などサ高住入居者さまを支援する「快適生活サポート」のしくみのほか、令和3年10月に開設した高志の郷居宅支援事業所や、令和5年2月開設の定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所「定期巡回にこにこ」等と連携し、入居者さまが安心して生活できるように努めていく。

⑥ 運営への地域ニーズの反映や関係機関との連携を進める

- 「運営協議会」における議論やご意見の吸収、反映
- 地域の関係機関との協力、連携の推進

(イ) 支出の効率化

令和5年度も継続して、赤字が想定されることから、収入に見合った支出の観点をあらためて強化し見直しを進めていく。

このために、令和4年度支出については、人件費を含めて聖域を残さず可能な限り抑制し、また冗費の削減に努めるとともに、フロア制など効率性の高い業務環境や手法の検討に取り組む。

- ① 令和元年度に実施した高志の郷及び鳳鳴苑別館の照明のLED化に続いて、西館いこいのLED化を行い、4年度の本館及び新館の改修では、高効率の空調設備の導入やLED化などの省エネ化に努めている。

② 効率性の高い業務環境や手法の活用を進める。

- 令和元年度までに導入したタブレット端末など入力しやすいハードや、情報共有によって業務の改善が図りやすい情報共有ソフト「MeLL+」などを活用して情報の入力負担の軽減や業務の効率化を図る。
- 移乗ロボット「愛移乗君」、西館「いこい」トイレのリフト導入に並行して、深夜の介護効率化と入居者のよりよい睡眠、介護記録等のデータの収集、記録の省力化に向けて、体動（寝返り、呼吸、心拍など）を測定し、睡眠状態を把握する「眠りスキャン」については、県補助金を活用して4年度までに長期入所130床全床に導入した。
- 今後も、引き続いて、年々増加している介護現場等でのデータ入力負担の軽減を図る観点から、有利な補助金などを活用しつつ、音声認識入力や測定機器による自動入力に向けて、インカムの導入などに取り組んでいく。

④ 適正な財務管理、予算管理に努めるとともに、冗費の削減に努める。

(2) 職員の処遇改善と職場環境の改善

引き続き、職員の質の高いサービスに向けた努力に報い、憂いなく業務に取り組むことができる処遇改善や職場環境の改善に努める。

① 職員の成長や能力向上努力と給与体系との連携の強化

- 研修の充実、昇任・昇格基準の明示・透明化に向けた制度の改善を引き続き進める。
 - ・ 職員のスキルや知識の向上に直接つながる研修の充実・重点化
 - ・ 透明性を高め、働きがいを引き出す昇任・昇格基準の設定と運用
- 給与体系と研修・人材育成体系のリンクを引き続き強める。このため、

つぎの点に配慮していく。

- ・ 職員の成長へのインセンティブ強化
- ・ 経験、知識や資格取得へのインセンティブ強化

② 職員負担を軽減するための人材確保に努める

業務の効率的な運営を図りつつ、職員に過度の負担が生じないように、引き続き人材の確保に努める。

③ 職場環境の改善に努める

各部門や安全衛生委員会の場合などにおいて職場環境の改善に努める。

○ 腰痛対策の一層の推進

- ・ ロボットなどの介護支援機器の導入推進
- ・ 腰痛を考慮した介護技術の普及研修の徹底

○ ロボット、新たな介護支援機器導入及び活用方法の一層の検討を進める。

- ・ 深夜の介護の効率化と入所者のよりよい睡眠、介護記録等のデータの収集、記録の省力化に向けて、体動（寝返り、呼吸、心拍など）を測定し、睡眠状態を把握する「眠りスキャン」を、令和元年度の別館 1 階の 20 床への導入を皮切りに令和 4 年度までに、特養 130 床全床への導入を完了した（再掲）。

○ ICT、各種システム活用負担の軽減

- ・ 介護現場の入力負担軽減のためタブレット端末を追加導入した（再掲）。また、音声認識入力への導入に向けて、インカムの導入に取り組む（再掲）。
- ・ 介護記録を職員間や事業所間で共有し、業務を効率化するために、新しいソフト「MeLL+」を導入した（再掲）。
- ・ 情報の効果的な共有と活用化を図るため、その他既存システムのバージョンアップ等に加えて機能の追加を行っている（再掲）。

○ 資機材等の整理整頓も含めた危険の除去の取り組み継続